

高機能自閉症&アスペルガー症候群

ネットワーク会議 (旭川)

～成人当事者の支援を考える～ 参加報告 (2012. 2. 28)

今年で12年目を迎えた日本自閉症協会主催、高機能自閉症とアスペルガー症候群の地域サポート事業（ネットワーク会議）北海道ブロックが旭川市で行われ参加してきました。この会議は高機能自閉症やアスペルガー症候群の理解や支援体制の在り方・専門機関との連携・地域の実情など、例年、それぞれの地域にあるニーズによって事業内容が検討されてきました。今年は『成人当事者による講演とシンポジウムによる啓発活動』をテーマに、成人当事者の支援に主眼がおかれています。その背景として『どの地域においても青年期支援の必要性が顕著となり大きな課題を抱えている、前年度のネットワーク会議のほとんどが成人期支援をテーマにしている。成人当事者から、当事者自身が自ら立ち上げ運営をしていく自助グループやピアサポートなどを求める声が多い。』と説明されていました。

まず午前中は道内自閉症協会各分会（旭川・オホーツク・十勝・札幌）、北海道教育大学旭川校特別支援教育分野 萩原 拓氏、NPO 法人東京都自閉症協会理事 尾崎ミオ氏、東京都発達障害支援センター支援員 柏木 理江氏、NPO 法人東京都自閉症協会スタッフ 片岡 聡氏、発達障害者支援道北地域センターきたのまち 今野氏、近郊の高等支援学校教諭1名参加で開催地の現状やニーズ、今後の課題などについて意見交換が行われました。午後からは成人当事者でもある片岡氏が登壇、「発達障害の理解と支援を求めて～成人した当事者の視点から」と題して講演されました。幼少からの育ち・環境・年代的な背景など今に至るご自身の経験から、ASDの教育問題や支援の基本姿勢、身体上の特性、社会性障害への援助、精神科医療・現在社会や企業への問題提起など多岐にわたって具体例を交えながら話されました。その後地元成人当事者O氏を交え、尾崎氏の進行でシンポジウムが開催されました。O氏は3月に専門学校を卒業、4月からパート勤務に就いています。仕事上の失敗・ジョブコーチの支援・自分にとって仕事とは・気分転換の方法・ピアグループなどについて話されました。

2005年発達障害者支援法施行、'07年特別支援教育開始、障害者基本法改正等々…公的な部分での支援体制が構築されてはきていますが…青年期支援の課題は、取りも直さず青年期に至るまでの生育環境がキー・ポイントだと感じました。本人の生来的な特性の部分と、どのような人達との関係性の中で育つのか。知的障害を伴わない場合、周囲の人たちが彼らの特性を理解することが難しく、インフォーマルサポート（翻訳者の支援やピアサポート等）の有無が二次的な障害発症や社会適応に深く関わってくる事を痛感しました。

青年期以降の長い人生を公助・共助のもと、自助を支える仕組み作りは欠かせないでしょう。親が子供に係わるのは子供の成長と共にその守備範囲／量・質ともに変化していきます。子供の成長と共に親自身も立ち位置を後方へとシフトさせつつ、その支援のバトンをいつ何処に誰に託すのか…青年当事者の支援を一人で抱え込まないで…親の会の存在意義はここにもありそうです。

ご登壇くださった成人当事者のお二人、生の声をお聞かせいただき有難うございました。

北海道自閉症協会札幌分会（札幌ポプラ会）古屋くみ子